# ひゅうがし農業委員会トビックスVol.6

# 笑顔がつなぐ人との絆 養豚業、ひょっとこ踊りの二刀流



市内で養豚業を営む髙橋安光さんを紹介します。

昭和32年生まれ。日向市で育ち、宮崎県立高鍋農業高等学校園芸科へ進学し、卒業後、熊本県河内町(現在は熊本市に編入)のみかん農家で、2年間みかん栽培技術を学ぶ。昭和52年に帰郷し、日向市の実家で、みかん栽培と養豚業を営みはじめ、平成27年に法人化し「髙橋ファーム株式会社」を設立。現在は、従業員含め5名で養豚業を営む。幼いころから慣れ親しんだひょっとこ踊りをずっと続けており、「永田のひょっとこ踊り(市指定無形民俗文化財)」の保存と継承を行う日向橘ひょっとこ踊り保存会会長を務める。

### [始めたきっかけ]

幼い頃から長男だから家業である農業を継がなければならないと思っていました。思い返してみても農業を始めるきっかけとなった理由はこれだけでしたが、気がつくと、40年以上農業を続けていました。曽祖父と祖父は戦争で亡くなってしまい、残された家族で主にタバコを栽培していましたが、タバコの価格が下がると、みかんの栽培に切り替えるなど、その時代にあった農業を模索し、父の代に養豚業を始め、現在まで30年ほど続いています。

## [経営について]

現在、母豚が160頭で全ての豚を合わせると常時約2,100頭を飼養しています。過去に、ベテランの従業員2名が同時期に退職することになり、甥と自分の2人だけで、どう続けていくか途方に暮れたことがありました。しかし、過去の縁から、新たに一緒に働いてくれる方が見つかり、今の体制で養豚業を継続することができるようになりました。人との縁に救われたと強く思う出来事です。ある程度の規模縮小を行いましたが、結果として、1頭ごとにかけられる時間が増え、肉質の向上に繋がったと思います。

#### [苦労しているところ]

一番は経費の6割を占める飼料代が高騰していることです。高騰前の1.5倍以上の価格まで上がっており、ずっと続くとどの業者も廃業に追い込まれる状況だと思います。大手農家も廃業が相次いでおり、危機的状況です。自社の対策として、善玉菌の集合体と言われるEM菌などを飼料に加えることで、腸の活動を活性化させ栄養の吸収効率を上げて、比較的少ない飼料での体重の増加を行っています。

#### 「こだわり」

飼養環境においても、肉においても、極力「臭みを出さない」ことに一番にこだわっています。 平成16年から飼養場に浄化槽の設置が義務化されたことをきっかけに、EM菌を浄化槽へ導入しま した。その結果、従来100日間ほどかけて、排泄物の処理を行なっていたのですが、機材への負荷 を減らしつつ、30日間程度で処理できるようになりました。そして、作業場全域でハエを見かけ なくなりました。また、ハーブや薬草、EM菌をブレンドした飼料は、肉そのものの臭いはもちろ ん、排泄物の臭いや量の抑制する役割も果たし、臭いを元から断つ取り組みを重視して行ってい ます。

# [目向ひょっとこポークについて]

自社のブランド名を考えるにあたり、なるべくオリジナル性があって、インパクトのある名前をつけたいと思っていました。その結果、日向を代表する踊りで自分の大好きなひょっとこ踊りを使うと良いと思い、「日向ひょっとこポーク」と名付け、商標登録を行いました。また、これまで行ってきた取組が、肉質の向上にも結びつき、多くのお客様から、臭みを感じず、さっぱりとし

# Vol.6ひゅうがし農業委員会トビックス

た甘みと脂身がおいしいといった評価を頂いています。肉の臭いが苦手で、豚肉が食べられないと言っていた方が、この肉なら食べられると言っておいしそうに食べている姿を見ると、本当に嬉しくなります。油がサラサラしているので、肉がとても切りやすいと加工業者の方からもお褒めいただいており、現在は、真空パックで生の肉を安全に全国の消費者へ届けることができるようになりました。

### [ひょっとこ踊りについて]

物心がついた時には、自然に生活の中にありました。運動会等のイベントの時にも踊りますが、何気ない日常でも、友達同士でおどけて踊っていました。高鍋農業高等学校の入寮パーティでも踊ったら、とても盛り上がり、その後30年ほど続く恒例行事になっていたようです。大人になっても、初対面の方へ踊ってみせたところ、一緒に踊って仲良くなる等、ひょっとこ踊りには、人を笑顔にする力があります。そして、驚くべきことに、ひょっとこ踊りがしたいと言って、県外から移住してきた人まで現れました。自分にとって、ひょっとこ踊りは、生活の中にあって当たり前の存在でありながらも本当に特別で奥深い存在です。そして、日向ひょっとこ夏祭りも今年で、第40回を迎えることになり、始まる前から大きな盛り上がりをみせています。ぜひとも多くの方に来ていただければ嬉しい限りです。



# [今後の展望について]

まだまだ自社ブランドの知名度を上げていきたいので、もっと仕上がりに独自の色を出せるようにしていきたいと思います。そして、まだ先の話ですが、一緒に養豚業を営んでくれる従業員をはじめ、思いを継承してくれる誰かが後を継いでくれたら嬉しく思います。自分は、91歳まで農業を続けた父のように、生涯現役を目指し、どのような形でも農業を続けていきたいです。これまで、地域のためにPTA会長や幼稚園の理事など引き受けてきたことや、ひょっとこ踊りを通して縁が生まれ、その縁に思いもしないような場面で助けられたことがたくさんあります。その縁が「絆」となり、農業経営をここまで続けてこられたと思います。その「絆」に深く感謝しながら、美味しい肉づくりを目指していきたいと思います。